

新生児及び乳児の RS ウイルス感染とその重症化を予防するための 妊婦に対する RS ウイルスワクチン（アブリスボ®）接種について

妊婦に対する RS ウイルスワクチン(アブリスボ®)接種について「RS ウイルス」は、生後 2 歳までにほぼ 100%のお子さんが感染する小児の代表的な呼吸器疾患の病原体です。乳幼児における肺炎の約 50%、細気管支炎の 50～90%が RS ウイルス感染症によるとされ、特に生後 6 か月未満で感染すると重症化しやすいことが知られています。そこで免疫力を高め、感染の重症化を防止するために、「妊婦への能動免疫による新生児及び乳児における RS ウイルスを原因とする下気道疾患の予防」を効能として、組換え RS ウイルスワクチン(販売名:アブリスボ®筋注用)が医薬品として認可されました。以下に妊婦さん向けの RS ウイルスワクチンについて説明します。

1. RS ウイルスワクチンを妊婦さんに接種すると、母体の RS ウイルスに対する中和抗体価が高まります。中和抗体は胎盤を通じて母体から胎児へ移行しますので、生後数か月の間、お子さんの RS ウイルス感染症の重症化予防の効果が期待できます。(中和抗体＝ウイルスに結合して感染や重症化を防ぐ抗体)
2. RS ウイルスワクチンは、出生後 6 ヶ月までの RS ウイルスを原因とする下気道疾患の予防効果が認められています。出生後 6 ヶ月以降の有効性は確立していません。

	RS ウイルスワクチンを 接種した妊婦からの出生児	偽薬(ワクチンなし)を 接種した妊婦からの出生児	ワクチンの 有効性
RS ウイルスを原因とする 下気道疾患(出生後 6 ヶ月まで)	1.6%	3.4%	51.3%
上記のうち重症	0.5%	1.8%	69.4%

第Ⅲ相臨床試験の結果から抜粋

3. RS ウイルスワクチン接種後 14 日以内の妊婦さんから出生したお子さんは、母体からの中和抗体の移行が十分ではない可能性があります。
4. お子さんが早産児などの RS ウイルス感染症の重症化リスクが高い疾患・病態にある場合、妊婦さんの RS ウイルスワクチン接種の有無にかかわらず、抗体製剤の投与対象となることがあります。お子さんが投与対象となる場合は、担当医から説明があります。
5. RS ウイルスワクチンは接種を希望する妊娠 36 週までの妊婦さんに、1 回の筋肉注射を行います。
6. 当院の RS ウイルスワクチンの接種費用は、自己負担で 27600 円です。
7. RS ウイルスワクチンは妊婦さんの自由意志に基づいて接種します。

接種を希望する妊婦さんは、妊娠 32～36 週の妊婦健診時に母性外来受付にお申し出ください。

8. 接種予定日に発熱があるといった理由で RS ウイルスワクチンを接種できないことがあります。